



Apache Bigtop 3.3 (仮)

2024/03/01

岩崎 正剛

日本Hadoopユーザ会 / 株式会社NTTデータグループ

Apache Bigtopの概要

Apache Bigtopとは何か

- 公式サイト (<https://bigtop.apache.org/>) より:
 - "Bigtop is an Apache Foundation project for Infrastructure Engineers and Data Scientists looking for comprehensive packaging, testing, and configuration of the leading open source big data components."
 - 『Bigtopは、先進的なビッグデータ関連OSSのパッケージングやテスト、設定を求めているインフラエンジニアやデータサイエンティストのためのApacheソフトウェア財団のプロジェクトです。』
- 一言で言うと「Hadoop・Sparkを中心とした大規模データ処理基盤を容易に構築するためのOSS」です。



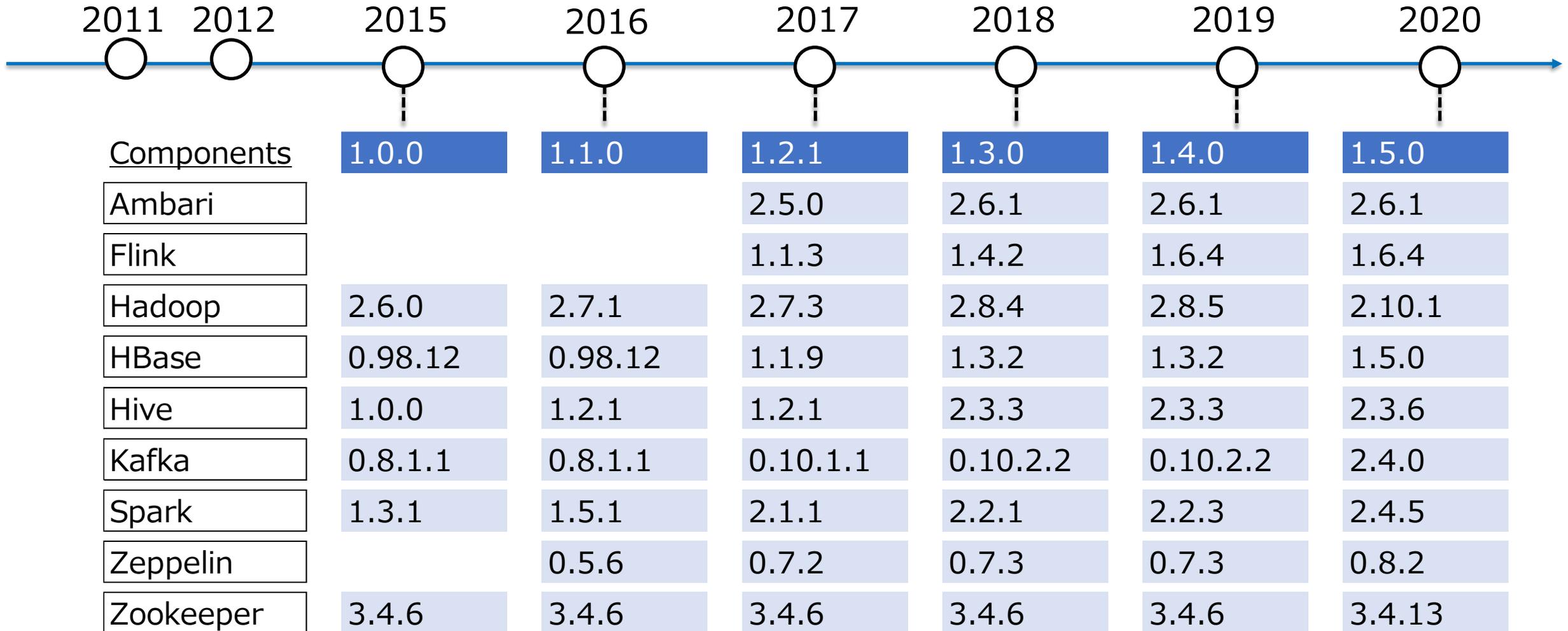
データ基盤構築のためにBigtopが提供する機能

1. 要件を満たすソフトウェアの選定と、それらの間の相互運用性の確認
→相互運用性を確認済みの幅広いビッグデータ関連ソフトウェアを、debやrpmとしてパッケージングするための資材および、ビルド済みパッケージを提供
2. ソフトウェアパッケージをサーバ群にインストールし、各製品を適切に設定
→各ソフトウェアのデプロイを自動化するための Puppet マニフェストを提供
3. 設定を施したサーバ群が、クラスタとして正しく動作することを確認
→各ソフトウェアの主要な機能の動作確認のための、スモークテストを提供
4. ローカル環境で、デプロイ資材の開発、各製品の試用を実現
→Dockerコンテナ上でPuppetマニフェストの適用、スモークテストの実行や試用をするためのProvisionerを提供

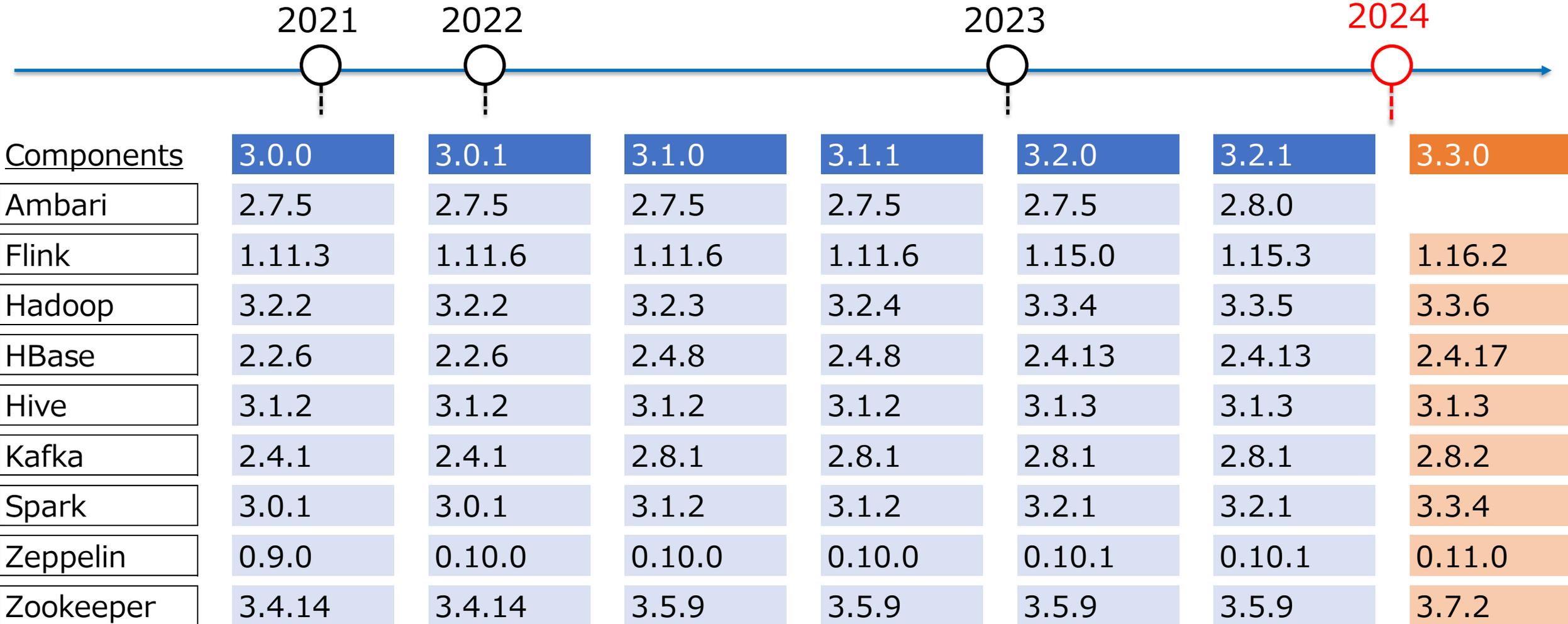
Apache Bigtop の歴史

Cloudera社からApacheソフトウェア財団（以下ASF）に、incubatorプロジェクトとして寄贈される

Apache incubator プロジェクトからトップレベルプロジェクトに昇格



Apache Bigtop の歴史



Bigtop 3.2.1のソフトウェアスタック

| コンポーネント | バージョン | 説明 |
|---------|--------|-------------------------|
| Alluxio | 2.8.0 | ストレージ仮想化 |
| Ambari | 2.7.5 | クラスタ構築・管理 |
| Flink | 1.15.3 | ストリーム処理系 |
| GPDB | 5.28.5 | MPP |
| Hadoop | 3.3.5 | 分散ファイルシステム・ 並列分散処理基盤 |
| HBase | 2.4.13 | 分散KVS |
| Hive | 3.1.3 | Hadoop用クエリ処理系 |
| Kafka | 2.8.1 | 分散メッセージブローカ |
| Livy | 0.7.1 | Spark用RESTゲートウェイ |

| コンポーネント | バージョン | 説明 |
|-----------|--------|-------------------------|
| Oozie | 5.2.1 | ジョブスケジューラ |
| Phoenix | 5.1.2 | HBase用クエリ処理系 |
| | | |
| Solr | 8.11.2 | 全文検索エンジン |
| Spark | 3.2.1 | 並列分散処理エンジン・ ストリーム処理系 |
| Tez | 0.10.1 | 並列分散処理エンジン |
| YCSB | 0.17.0 | ベンチマークツール |
| Zeppelin | 0.10.1 | ノートブック |
| Zookeeper | 3.5.9 | 分散コーディネーション |

Bigtop 3.3のソフトウェアスタック(仮)

| コンポーネント | バージョン | 説明 |
|---------|--------|-------------------------|
| Alluxio | 2.9.3 | ストレージ仮想化 |
| Ambari | 2.7.5 | クラスタ構築・管理 |
| Flink | 1.16.2 | ストリーム処理系 |
| GPDB | 6.23.1 | MPP |
| Hadoop | 3.3.6 | 分散ファイルシステム・ 並列分散処理基盤 |
| HBase | 2.4.17 | 分散KVS |
| Hive | 3.1.3 | Hadoop用クエリ処理系 |
| Kafka | 2.8.2 | 分散メッセージブローカ |
| Livy | 0.8.0 | Spark用RESTゲートウェイ |

| コンポーネント | バージョン | 説明 |
|---------------|--------------|-------------------------|
| Oozie | 5.2.1 | ジョブスケジューラ |
| Phoenix | 5.1.3 | HBase用クエリ処理系 |
| Ranger | 2.4.0 | 認可 |
| Solr | 9.1.1 | 全文検索エンジン |
| Spark | 3.3.4 | 並列分散処理エンジン・ ストリーム処理系 |
| Tez | 0.10.2 | 並列分散処理エンジン |
| YCSB | 0.17.0 | ベンチマークツール |
| Zeppelin | 0.11.0 | ノートブック |
| Zookeeper | 3.7.2 | 分散コーディネーション |

※3.3 で削除されるコンポーネント

Ambari, Oozie, YCSB

Bigtop 3.3 のソフトウェアスタックにおける主な変更点

- Ambari削除
 - AmbariとBigtopとの間の依存関係が、循環するような状況を解消するため。
 - AmbariのBigtopスタック(mpack)定義はAmbari側に移動。
 - [Ambariそれ自体のパッケージングはAmbari側で提供。](#)
- Oozie削除
 - バージョン5.1.2(2021年)を最後にリリースされず、更新もほとんどないため
 - 現在アクティブに開発/利用されている代替プロダクトはApache Airflow?
- YCSB削除
 - 3年以上にわたり更新/リリースがないため
- Ambari、Oozie、YCSBは他のミドルウェアと連携する都合上、ビルド時間が長く、パッケージのバイナリが巨大になりがちだったため、これらの削除でBigtopの開発がすこし身軽になった。
- Rangerの追加 (予定)
 - HDFS, YARN, Hive, HBase, Kafka などに粒度の細かい認可ルールを設定・一元管理

Bigtop 3.3のサポートするOSディストリビューション

- 2024/3時点ではまだ未確定
- openEulerが追加([BIGTOP-3875](#))
 - Huawei社が開発したディストリビューションをオープンソース化。
 - Red Hat Enterprise Linuxベース
- 維持コストの削減のため同系列で複数LTSをサポートしない方向性
 - CentOS 7は(Ambariとセット)で利用ユーザが多いため継続中

| Linux distro | Bigtop 3.2.1 | Bigtop 3.3.0 |
|------------------|---------------------|--------------|
| CentOS | 7 | 7 |
| Rocky Linux | 8 | 8 or 9 |
| Fedora | 35, 36 | 38 |
| openEuler | | 22.03 |
| Debian | 10, 11 | 11 |
| Ubuntu | 18.04, 20.04, 22.04 | 22.04 |

Bigtop 3.3のサポートするCPUアーキテクチャ

- x86_64とaarch64はAWS等を利用して開発、テストできる。
 - 中国系(企業)のcontributorはaarch64利用が多い印象。
- ppc64le環境でのビルドはベストエフォートの。
 - CI環境も乏しい(1ノード)ため、対応を落としがち。
- ネイティブコードを含むJavaライブラリで、x86_64だと、aarch64やppc64leの個別対応が必要になる。

| CPU アーキテクチャ | Bigtop 3.2.1 | Bigtop 3.3.0 |
|----------------|--------------|------------------|
| x86_64 | ○ | ○ |
| aarch64 | ○ | ○ |
| ppc64le | ○(Rocky8を除く) | ○(Rocky8、???を除く) |

プラットフォームと互換性

なぜLinuxなのか

- BigtopがサポートするのはLinuxの主要ディストリビューション
 - 主要プロダクトの多くがJavaベースではあるものの
- HadoopのサーバプラットフォームとしてはLinuxが前提
 - 主要部分はJava: 多くのプラットフォームで動く
 - CLIはbash (>=3.0): 多くのプラットフォームで動く
 - Windows用のhadoop.cmdも存在するがもうメンテされていない
 - Cで実装されたネイティブコード(libhadoop.so)はLinux依存
 - オプションな機能や性能向上を提供: 特にHDFSのサーバ側で重要
 - Linuxのシステムコール前提
- (Hadoopの)開発者はUbuntu on x86_64が多数派という印象
- HadoopのCI環境もUbuntu on x86_64
- それ以外のプラットフォーム(RHEL系、aarch、ppc64le)の問題が見落とされがち

nativeライブラリのポータビリティ

- Hadoopプロジェクト配布版binary tarballにもlibhadoop.soは入っているが、どのLinux環境でも動くとは限らない

binary tarballは特定の環境でビルドしたものをoptionalに提供

例えばHadoop 3.2.2の場合はUbuntu 16.04でビルドしたもの

glibcのバージョンミスマッチでnativeライブラリが使えない状態:

```
$ hadoop checknative
Native library checking:
hadoop:  false
zlib:    false
...

$ ldd libhadoop.so
./libhadoop.so: /lib64/libc.so.6: version `GLIBC_2.14' not found (required by ./libhadoop.so)
        linux-vdso.so.1 => (0x00007ffc0959f000)
        ...
```

Javaのバージョン

- パッケージング対象プロダクトの大半はJava/JVM言語で実装
- Bigtopは各種Linuxディストリビューション提供のOpenJDK **8**を(ビルドに)利用
- 主にHadoop開発環境のJava 11移行が難航しているため...
 - Jerseyのupgradeがblocker([HADOOP-15984](#))
 - 影響を受けるコードが非常に多い
 - Jersey 1とJersey 2(以降)がJAX-RSの異なるバージョンに基づき、両方を共存させてサブモジュールごとに段階的にアップデートできない。
- Hadoop 3.3(以降)は、実行環境としてはJava 11をサポート
- 他のJavaプロダクトもJava 11上で実行可能(なはず)

JavaのAPI

- 公開APIと内部APIの分離が不完全
 - サブモジュール間で参照するためにpublicにされたクラス/メソッドが多い
 - 下流のプロダクトがテストのために内部APIを利用できてしまう
 - 各プロダクトの開発者は、下流のプロダクトを意識しきれない
- プロダクトXの内部APIを変更すると、依存するプロダクトYのビルドが壊れたりしがち

- 公開APIを示すためのアノテーションを利用する例もあるが、強制力はない
 - @InterfaceAudience.PublicなものだけJavadocが出力される
 - @InterfaceAudience.Privateだとマイナーバージョンアップでも変更されうる

InterfaceAudienceアノテーションの例:

```
@InterfaceAudience.LimitedPrivate({ "MapReduce", "HBase" })  
@InterfaceStability.Unstable  
public class DistributedFileSystem extends FileSystem  
    implements KeyProviderTokenIssuer, BatchListingOperations {
```

Javaライブラリの依存関係(とdependency hell)

- 同一パッケージ名、同一クラス名のライブラリを複数バージョン混在させることは不可能
- ダメなパターンの例:
 - プロダクトXがプロダクトYに依存
 - プロダクトXがhoge-1.0に依存し、hoge-1.5に無いAPIを利用
 - プロダクトYがhoge-1.5に依存し、hoge-1.0に無いAPIを利用
- 汎用的なライブラリは特にプロダクト間で競合しがち
 - SLF4J, Log4j
 - commons-logging, commons-cli, commons-httpclient
 - Jackson
 - Guava
 - Netty, Jetty, Jersey
 - protobuf-java
 - ZooKeeper, Curator
- 脆弱性対応のために依存ライブラリをアップグレードすると、非互換な変更が入ることも

Bigtopの役割

- ちゃんと機能するプロダクトのバージョンの組み合わせは自明ではない
 - Bigtopは「機能するバージョンの組み合わせ」を選定
 - 場合によってはパッチをあてて辻褄を合わせる
- CPUアーキテクチャ、OSディストリビューションごとの調整も必要
 - Bigtopはそれぞれの環境でビルドしてパッケージングしてテストする仕組みを提供

Bigtopの基本素材

Bigtopのソースコード

- ソースコードはGitHubにある
 - # 2019年4月からASF(Apache Software Foundation)全体として
<https://blogs.apache.org/foundation/entry/the-apache-software-foundation-expands>
- 開発の管理はJIRA
 - <https://issues.apache.org/jira/projects/BIGTOP>
 - issueを作ってパッチを添付するかpull requestのリンクを貼る

Bigtopのソースコードの取得:

```
$ git clone https://github.com/apache/bigtop
$ cd bigtop
```

Bigtopのタスク

- Gradleを利用して各種処理を実行する

タスク一覧の表示:

```
$ ./gradlew tasks

> Task :tasks

-----
Tasks runnable from root project - Bigtop
-----

Apache Creadur tasks
-----
rat - Runs Apache Rat checks

Build tasks
-----
assemble - Assembles the outputs of this project.
...
```

Bigtop BOM

- 部品表: 対象プロダクトとそのバージョンなどが記述されている
- GroovyのConfigSlurperの書式

```
$ cat bigtop.bom
bigtop { // *the name should be change: the parsing code depends on it*
  version = "STACK-VERSION" // *required*
  stack { // *required* Fundamental properties of the Stack: JDK, SDK, GDK, etc
    'jdk' { version = '1.8'; version_base = version }
    'scala' { version = '2.10.4'; version_base = version }
  }
  ...
  components {
    'hadoop' {
      name      = 'hadoop'
      relNotes = 'Apache Hadoop'
      version { base = '3.2.2'; pkg = base; release = 1 }
      tarball { destination = "${name}-${version.base}.tar.gz"
                source      = "${name}-${version.base}-src.tar.gz" }
      url      { download_path = "/$name/common/$name-${version.base}"
                site         = "${apache.APACHE_MIRROR}/${download_path}"
                archive      = "${apache.APACHE_ARCHIVE}/${download_path}" }
    }
  }
}
```

bigtop_toolchain

bigtop_toolchain

- プロダクト群をビルドするための環境をセットアップする資材
 - Puppetをインストールするスクリプト
 - ビルドツール群をインストールPuppetマニフェスト
 - JDK, Maven, GCC, CMake, Protocol Buffers, lib*-devel, ...
- OS提供パッケージだとバージョンが合わないものは個別にセットアップ
- プラットフォーム差分に対応するためのワークアラウンドも提供
 - 例) aarch64対応のバックポートパッチを当ててprotobuf-2.5.0をビルド

bigtop_toolchainによるビルド環境のセットアップ:

```
$ sudo bigtop_toolchain/bin/puppetize.sh  
$ ./gradlew toolchain
```

Protocol Buffers

- 最近のHadoopやHBaseはprotobuf-maven-pluginを利用
 - protocのバイナリをビルド時に自動的にダウンロードして利用
- バイナリが未提供のプラットフォーム/バージョンではうまくいかない
 - com.google.protobuf:protoc < 3.5.0 ではaarch64用バイナリが未提供
 - com.google.protobuf:protoc < 3.7.0 ではppc64le64バイナリが未提供
- bigtop-toochainはワークアラウンドとしてProtocol Buffersにパッチを当ててビルド
 - ビルド時にmvn install:install-fileでローカルアーティファクトをインストールして利用
- (FYI)Hadoop 3.3.0でprotobuf-2.5.0からprotobuf-3.7.1に移行
 - だがしかしTezはまだprotobuf-2.5.0を利用

do-component-build内でローカルビルドしたprotocからアーティファクトをインストール:

```
if [ $HOSTTYPE = "aarch64" ] ; then
  mvn install:install-file -DgroupId=com.google.protobuf -DartifactId=protoc -Dversion=2.5.0 ¥
    -Dclassifier=linux-aarch_64 -Dpackaging=exe -Dfile=/usr/local/bin/protoc
fi
```

bigtop-packages

bigtop-packages

- プロダクトをビルドしてパッケージングする
- 「プロダクト名-pkg」というGradleタスクで実行
- .rpmと.debの2種類に対応
 - ビルド環境に応じたパッケージが作られる
 - Red Hat系なら.rpm
 - Debian系なら.deb

パッケージングタスクの実行例:

```
$ ./gradlew hadoop-pkg  
$ ./gradlew zookeeper-pkg  
$ ./gradlew bigtop-jsvc-pkg bigtop-utils-pkg bigtop-groovy-pkg
```

パッケージング資材

- 共通のビルド手順とインストール手順を.debと.rpm用の資材から呼び出して使う
 - ビルド手順: do-component-build
 - インストール手順: install_プロダクト名.sh

パッケージング資材の配置:

```
bigtop-packages
```

```
├── src
│   ├── common
│   │   ├── hadoop
│   │   │   ├── do-component-build
│   │   │   └── install_hadoop.sh
│   ├── deb
│   │   ├── hadoop
│   │   │   ├── control
│   │   │   └── rules
│   └── rpm
│       ├── hadoop
│       │   └── SPECS
│       │       └── hadoop.spec
```

Bigtopパッケージングにおけるパッチ適用

- パッケージング時にpatch.*diffという名前のパッチファイルを適用
- 各プロダクトのリリース版そのままでは解決できない問題に対応
 - 特定プラットフォームでビルドが失敗する問題への対処
 - パッケージング対象バージョンに含まれない修正のバックポート
 - 互換性を壊す変更のrevert
 - プロダクト間のdependenciesのつじつま合わせ
- patchを書いたらなるべく本家にfeedback

Bigtopが適用するpatchの例:

```
$ find bigtop-packages/src/common/hadoop -name 'patch*.diff' | sort
bigtop-packages/src/common/hadoop/patch0-revert-HADOOP-16598.diff
bigtop-packages/src/common/hadoop/patch1-HADOOP-15939.diff
bigtop-packages/src/common/hadoop/patch2-exclude-spotbugs-annotations.diff
bigtop-packages/src/common/hadoop/patch3-fix-broken-dir-detection.diff
```

パッケージリポジトリの作成

- \$BIGTOP_HOME/output 下に出力されるパッケージファイルでリポジトリを作成する
- repoタスクで実行
- その環境に応じたリポジトリが作られる (Red Hat系ならYumの、Debian系ならAptの)

リポジトリの作成(CentOS 8で実行した場合の例):

```
$ ./gradlew repo
$ tree output
...
├── hadoop
│   ├── hadoop-3.2.2-1.el8.src.rpm
│   └── x86_64
│       ├── hadoop-3.2.2-1.el8.x86_64.rpm
│       ├── hadoop-client-3.2.2-1.el8.x86_64.rpm
│       └── hadoop-conf-pseudo-3.2.2-1.el8.x86_64.rpm
...
├── hadoop-hdfs-3.2.2-1.el8.x86_64.rpm
...
├── repodata
...
├── aa0ff69b812187315d6825fcf7d862c326ac1ba42bf9625e57b826cd6462a68c-filelists.xml.gz
├── cb8d35ada5c22a89e1f65a62229acde45b4175d5281a513fc6e1190d0ce4544c-filelists.sqlite.bz2
├── f2077b7afd203a11428c21ca3c41f02a786fc2f514888274f12f514673d4f88f-primary.xml.gz
└── repomd.xml
```

Dockerコンテナを利用したパッケージング

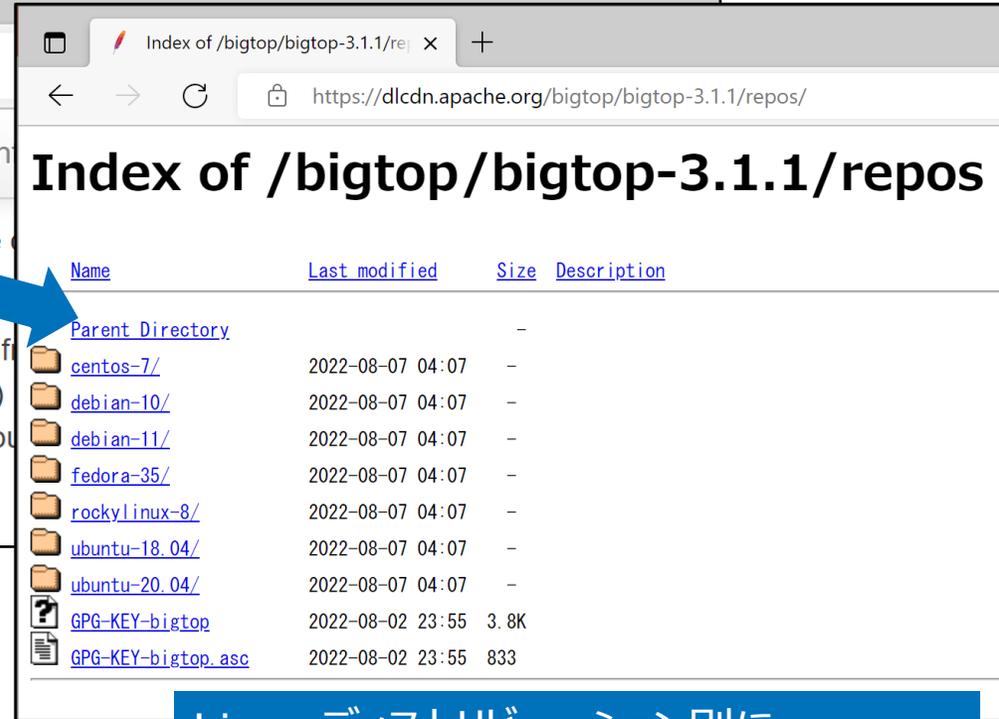
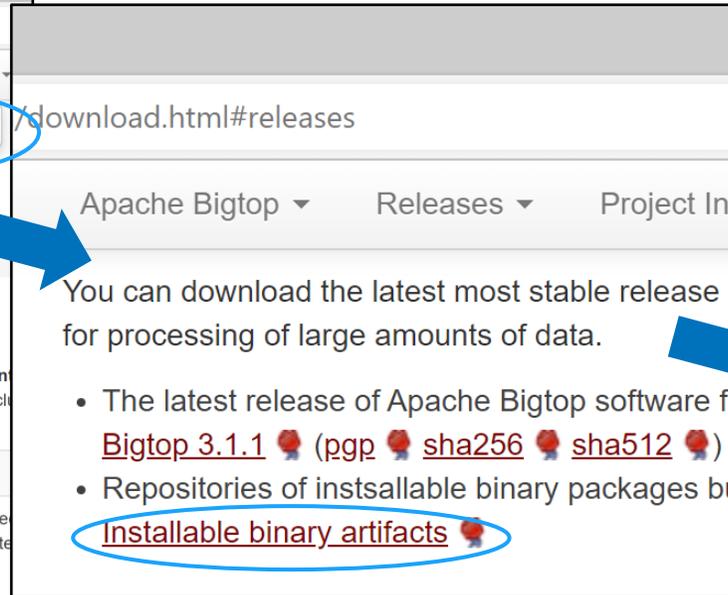
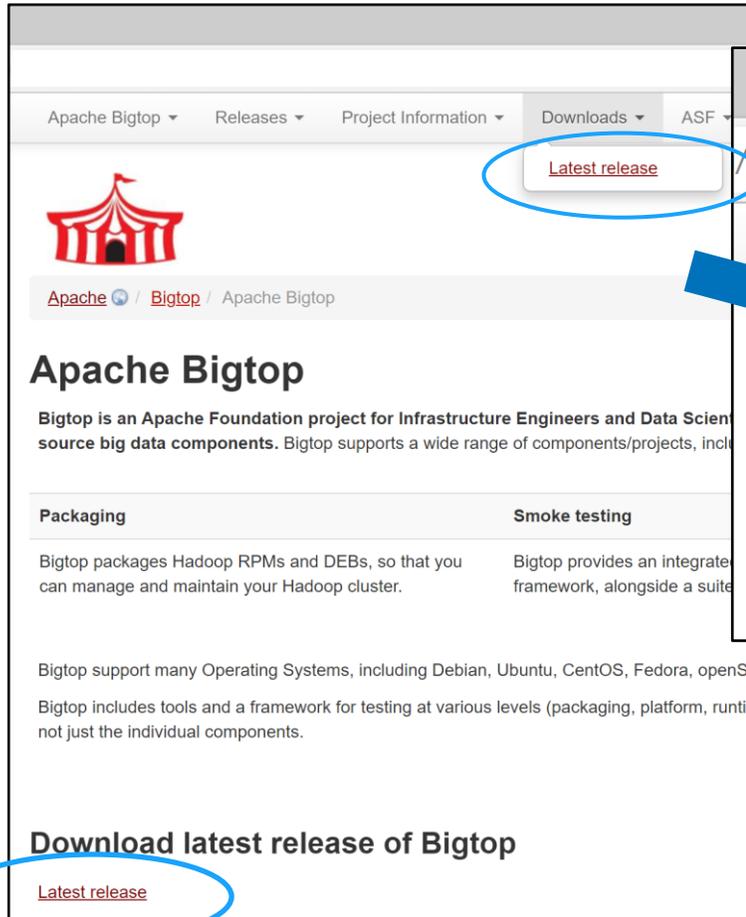
- 「プロダクト名-pkg-ind」というGradleタスクで実行(in Docker container)
- ひとつの環境で全OSディストリビューションのパッケージをビルドできる
- Docker Hubのbigtop/slavesのイメージを利用
 - -POS=centos-7 -Pprefix=trunkだとtrunk-centos-7タグになる(x86_64の場合)
- CPUアーキテクチャはホスト環境に応じて決まる
 - aarch64のマシン上でやるとtrunk-centos-7-aarch64タグ
- 毎回ライブラリをすべてダウンロードすると遅い(BIGTOP-3801)
 - -Pmvn-cache-volume=trueでローカルリポジトリをvolumeに保存して再利用
- repo-indタスクは、repoタスクをDockerコンテナで実行
 - Docker provisioner(後述)と組み合わせてテストに利用

パッケージングタスクの実行例:

```
$ ./gradlew hadoop-pkg-ind -POS=rockylinux-8 -Pprefix=trunk -Pmvn-cache-volume=true  
$ ./gradlew repo-ind -POS=rockylinux-8 -Pprefix=trunk
```

ビルド済パッケージのリポジトリ定義ファイル

[Bigtop の公式サイト](#) 以下のリンクを辿って取得



Linux ディストリビューション別に、rpm 用の .repo ファイルや deb 用の .list ファイルがダウンロード可能

ビルド済パッケージのインストール手順(RPM)

- RPMパッケージを用いたコンポーネントのインストールは以下の3ステップ

1. リポジトリ設定ファイルをダウンロード・配置

```
$ sudo wget -P /etc/yum.repos.d -q ¥  
https://dlcdn.apache.org/bigtop/bigtop-3.1.1/repos/centos-7/bigtop.repo
```

2. GPG キーをインポート

```
$ sudo rpm --import ¥  
https://dlcdn.apache.org/bigtop/bigtop-3.1.1/repos/GPG-KEY-bigtop
```

```
$ sudo yum install hadoop
```

3. リポジトリ情報のアップデート・コンポーネントのインストール

```
$ hadoop version  
Hadoop 3.2.4
```

ビルド済パッケージのインストール手順(DEB)

- debパッケージを用いたコンポーネントのインストール手順も同様

```
$ sudo wget -P /etc/apt/sources.list.d -q ¥  
https://dlcdn.apache.org/bigtop/bigtop-3.1.1/repos/ubuntu-20.04/bigtop.list
```

1. リポジトリ設定ファイルをダウンロード・配置

```
$ curl -s https://dlcdn.apache.org/bigtop/bigtop-3.1.1/repos/GPG-KEY-bigtop | ¥  
sudo apt-key add -
```

2. GPG キーをインポート

```
$ sudo apt-get update
```

```
$ sudo apt-get install hadoop
```

3. リポジトリアップデート・コンポーネントインストール

```
$ hadoop version  
Hadoop 3.2.4
```

bigtop-deploy

bigtop-deploy

- パッケージの導入でインストール作業は省力化できたが、以下の問題は解決されていない
 - サーバの台数が多い場合、1台1台インストールのコマンドを投入するのは大変
 - パッケージのインストール後も、各ソフトウェアに適切な設定を施したり、サービスを起動したりといった作業が必要
- Bigtop はこれらの作業を自動化するためにPuppet マニフェストを提供
 - [Puppet](#) はRubyで実装された構成管理ツール
 - Puppet manifest はシステムの「あるべき姿」を宣言的に記述したDSL
 - 記述に従って Puppet がパッケージのインストールや設定、サービス起動などを行う
 - [Hiera](#)はキーバリュ型の設定管理システム
 - ユーザが環境に応じて変更したいパラメータをmanifestと独立に指定できる

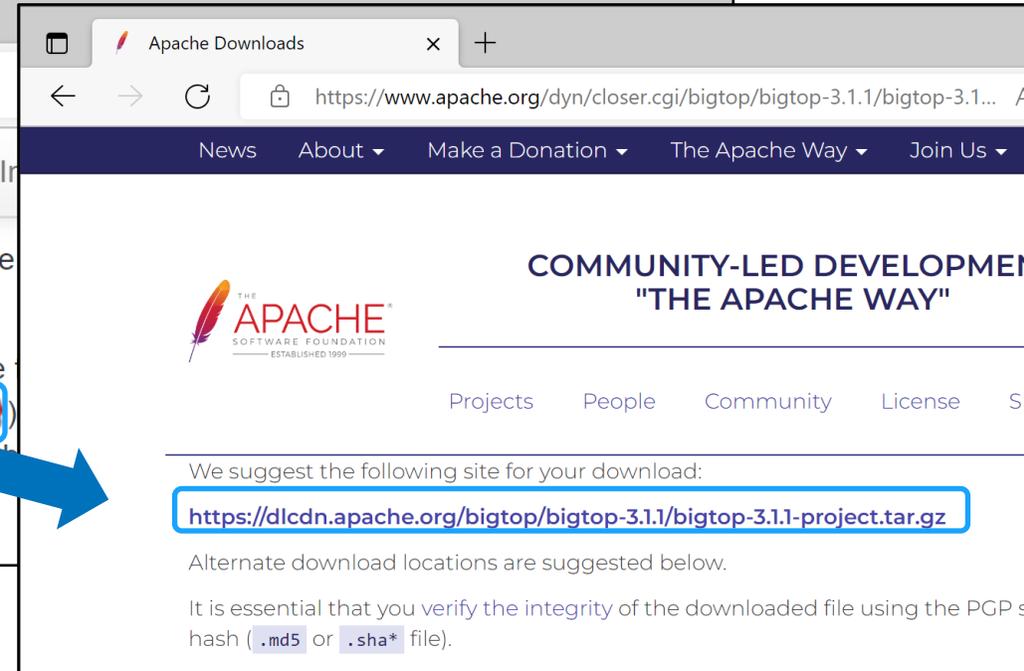
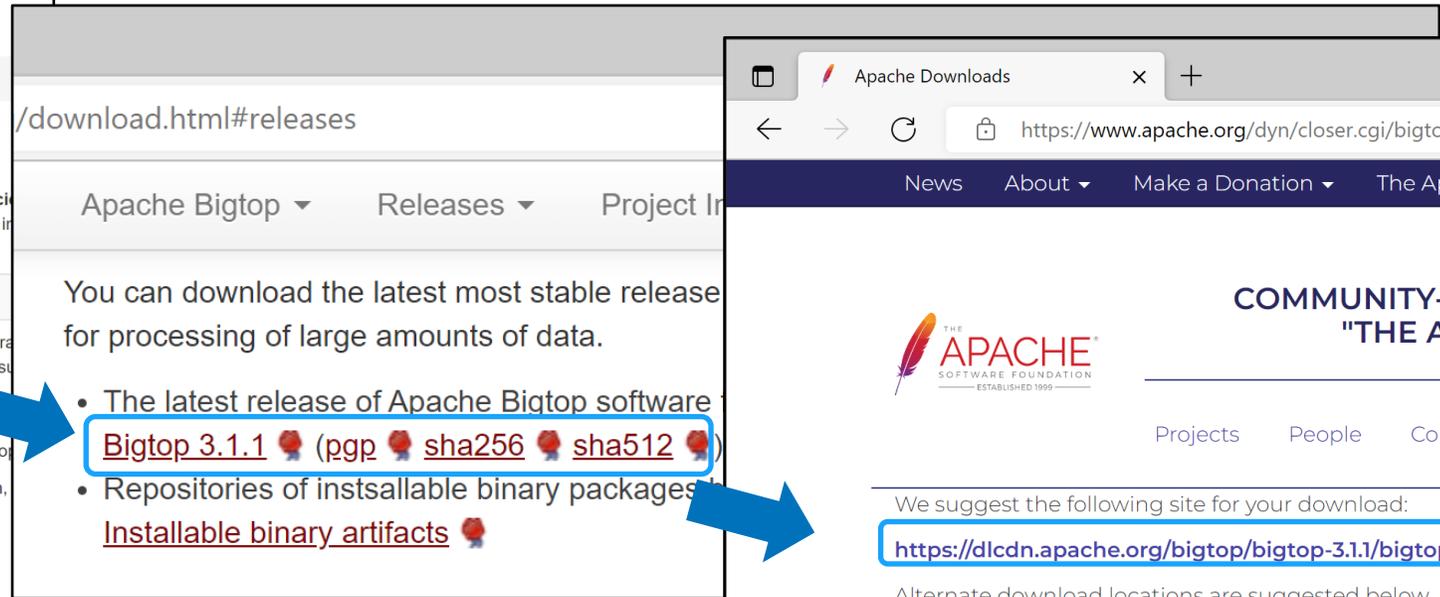
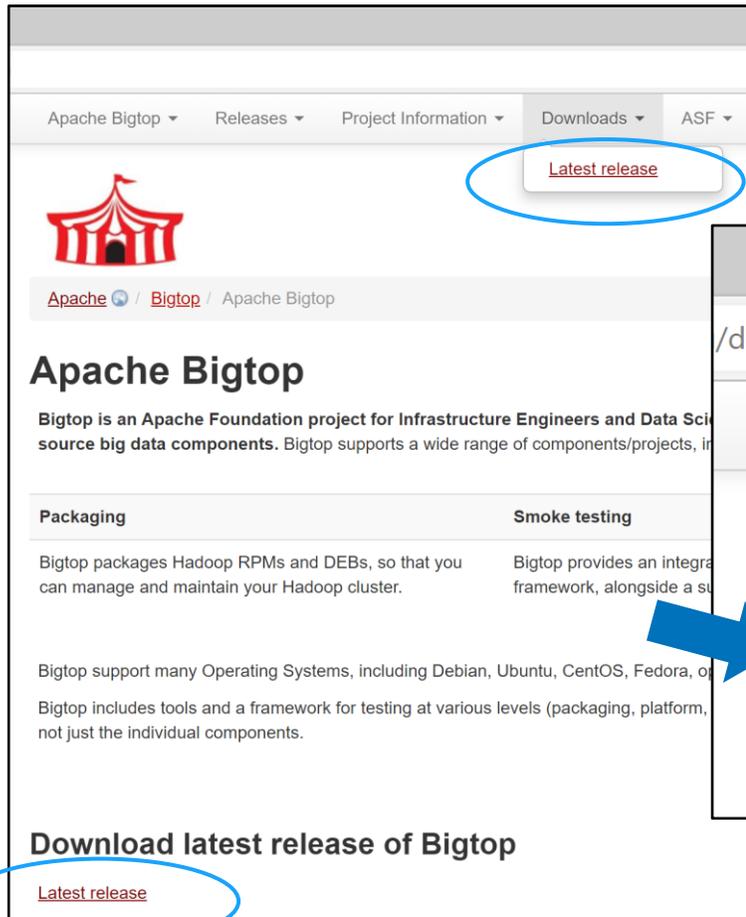
bigtop-deploy/puppet

- Hadoopクラスタを構築するためのPuppetマニフェスト:

```
$ tree bigtop-deploy/puppet
bigtop-deploy/puppet
├── hieradata
│   ├── bigtop
│   │   └── cluster.yaml
│   └── ...
├── site.yaml
├── hiera.yaml
├── manifests
│   ├── bigtop_repo.pp
│   └── cluster.pp
├── ...
├── hadoop
├── ...
├── manifests
│   ├── init.pp
│   └── templates
│       ├── container-executor.cfg
│       └── core-site.xml
├── ...
```

Puppet マニフェストのダウンロード

- Bigtop のサイトからsource tarballをダウンロード
- または<https://github.com/apache/bigtop>からソースコードを取得:



Puppet マニフェストを用いたコンポーネントのデプロイ手順

- Puppet マニフェストを用いたコンポーネントのデプロイは、以下の4ステップ (次ページに続く)

```
$ curl -sLO https://dlcdn.apache.org/bigtop/bigtop-3.1.1/bigtop-3.1.1-project.tar.gz
$ tar xf bigtop-3.1.1-project.tar.gz
$ cd bigtop-3.1.1
$ sudo bigtop_toolchain/bin/puppetize.sh
$ vi bigtop-deploy/puppet/hieradata/site.yaml
$ cat bigtop-deploy/puppet/hieradata/site.yaml
---
bigtop::hadoop_head_node: "fqdn.of.head.node"

hadoop::hadoop_storage_dirs:
  - /data

hadoop_cluster_node::cluster_components:
  - hdfs
  - yarn
  - mapreduce
```

1. Bigtop の tarball をダウンロードし展開

2. 中に含まれるスクリプトを実行して Puppet をインストール

3. Hiera ファイルを編集。最低限必要な設定は左記の3つだが、インストールするコンポーネントに応じて必要な設定を記述する。

- bigtop::hadoop_head_node: Hadoop のマスターノードのFQDN
- hadoop::hadoop_storage_dirs: Hadoop のデータ格納先ファイルパス
- hadoop_cluster_node::cluster_components:
インストールするコンポーネントのリスト。例では HDFS, YARN, MapReduceをインストールしている。

Puppet マニフェストを用いたコンポーネントのデプロイ手順 (続き)

```
$ sudo cp -r bigtop-deploy/puppet/hiera* /etc/puppet
$ sudo puppet apply --parser future ¥
  --modulepath=bigtop-deploy/puppet/modules:/etc/puppet/modules ¥
  bigtop-deploy/puppet/manifests
```

(略)

```
Notice: Finished catalog run in 65.99 seconds
```

```
$ echo $?
```

```
0
```

```
$ sudo jps
```

```
7873 ResourceManager
```

```
8722 DataNode
```

```
8486 NodeManager
```

```
8922 Jps
```

```
8251 NameNode
```

```
7775 WebAppProxyServer
```

```
8159 JobHistoryServer
```

4. Hiera ファイル群を所定のパスにコピーし、Puppet を実行
※"--parser future"オプションはCentOS 7にのみ付与
※--modulepathオプションに指定している"/etc/puppet/modules"の部分は
ディストリビューションによって異なる(puppet moduleのインストール先を指定する)

※一連の手順を parallel-ssh (<http://code.google.com/p/parallel-ssh/>)
などを用いて実行することで、クラスタ内の全サーバでデプロイを行うことが可能

provisioner

Docker provisioner

- ローカルやステージング環境で確認したいケースは多々ある
 - 業務上・システム上の要件を満たせるか
 - 構築手順が正しいこと
 - ソフトウェアをバージョンアップで問題が生じないか
- Bigtop は コンテナ上でコンポーネントをデプロイできる Provisioner を提供
- 事前にDockerとdocker-composeのセットアップが必要

Docker provisioner の使用方法

```
$ ./gradlew docker-provisioner -Pnum_instances=3 -POS=centos-7 -Pprefix=3.1.1 -Pstack=hdfs,yarn
```

...

3台の Docker コンテナ上 (OS は CentOS 7) に Bigtop 3.1.1 の HDFS, YARN をインストールするコマンドを実行

```
Pulling bigtop (bigtop/puppet:3.1.1-centos-7)...
```

```
3.1.1-centos-7: Pulling from bigtop/puppet
```

```
Digest: sha256:42f20509d1b9460b753b70f6e21882699de3a488f93af28375c466181bc8727a
```

```
Status: Downloaded newer image for bigtop/puppet:3.1.1-centos-7
```

```
Creating 20220929_115113_r20838_bigtop_1 ... done
```

```
Creating 20220929_115113_r20838_bigtop_2 ... done
```

```
Creating 20220929_115113_r20838_bigtop_3 ... done
```

(ローカルに存在しなければ) Bigtop 3.1.1 の CentOS 7 イメージが pull され、そのイメージからコンテナが作成される

...

```
Notice: Roles to deploy: [resourcemanager, nodemanager, mapred-app, hadoop-client, namenode, datanode]
```

```
Notice: Roles to deploy: [nodemanager, mapred-app, datanode]
```

```
Notice: Roles to deploy: [nodemanager, mapred-app, datanode]
```

指定したコンポーネントの Puppet マニフェストを使って、コンテナ上へのデプロイが実行される

...

```
Notice: Finished catalog run in 231.67 seconds
```

```
BUILD SUCCESSFUL in 4m 39s
```

Docker provisioner の使用方法 (続き)

プロビジョニングしたコンテナは、通常通り
`docker ps` コマンドで確認できる

```
$ docker ps
CONTAINER ID   IMAGE                                COMMAND                  CREATED        STATUS        PORTS        NAMES
6df7279c442e   bigtop/puppet:3.1.1-centos-7       "/sbin/init"           4 minutes ago Up 4 minutes
20220929_115113_r20838_bigtop_3
a37ba6399273   bigtop/puppet:3.1.1-centos-7       "/sbin/init"           4 minutes ago Up 4 minutes
20220929_115113_r20838_bigtop_2
850c8ce4785a   bigtop/puppet:3.1.1-centos-7       "/sbin/init"           4 minutes ago Up 4 minutes
20220929_115113_r20838_bigtop_1
```

```
$ docker exec -it 20220929_115113_r20838_bigtop_1 bash
[root@850c8ce4785a /]# jps
2416 Jps
1528 JobHistoryServer
1676 NodeManager
1212 ResourceManager
2156 DataNode
1086 WebAppProxyServer
1951 NameNode
[root@850c8ce4785a /]# exit
```

`docker exec` で任意のコマンドをコンテナ上で実行可能

```
$ ./gradlew docker-provision-destroy
...
BUILD SUCCESSFUL in 14s
1 actionable task: 1 executed
```

別のクラスタを起動する前には、既存のクラスタを破棄する必要がある

Docker provisioner の使用方法 (続き)

```
$ ./gradlew tasks
```

```
...
```

```
Deployment tasks
```

```
-----
```

```
docker-provisioner -
```

```
Provision a Bigtop stack cluster on Docker container(s). Default to CentOS and 1 node.
```

```
Properties:
```

- Pconfig=[CONFIG_FILE] (located under provisioner/docker/)
- Penable_local_repo
- Pimage=[DOCKER_IMAGE] (overwrites -POS and -Pprefix)
- Pmemory=[4g|8g|...]
- Pnum_instances=[NUM_INSTANCES]
- Pnexus=[NEXUS_URL] (NEXUS_URL is optional)
- POS=[centos-7|fedora-35|debian-10|ubuntu-18.04|opensuse-42.3]
- Pprefix=[trunk|1.2.1|1.2.0|1.1.0|...]
- Prepository=[REPO_URL]
- Prun_smoke_tests (run test components defined in config file)
- Psmoke_tests=[COMPONENTS]
- Pstack=[COMPONENTS]

Docker provisioner はオプションが多いため
`./gradlew tasks` コマンドで一覧を確認

Docker provisionerの実装

- 中身はDockerコンテナを起動してPuppetでクラスタを構築するスクリプト
- スクリプト(provisioner/docker/docker-hadoop.sh)を直接使ってもよい
- cgroup v2のホストでは--docker-compose-yml docker-compose-cgroupv2.ymlを指定

Dockerコンテナを利用したデプロイの例:

```
$ cd provisioner/docker
$ ./docker-hadoop.sh ¥
  --create 3 ¥
  --image bigtop/puppet:trunk-ubuntu-22.04 ¥
  --docker-compose-yml docker-compose-cgroupv2.yml ¥
  --docker-compose-plugin ¥
  --memory 8g ¥
  --repo file:///bigtop-home/output/apt ¥
  --disable-gpg-check ¥
  --stack hdfs,yarn,mapreduce,spark

$ ./docker-hadoop.sh --list
-----
Name                                Command    State  Ports
-----
20210124_122554_r12819_bigtop_1     /sbin/init Up
20210124_122554_r12819_bigtop_2     /sbin/init Up
20210124_122554_r12819_bigtop_3     /sbin/init Up

$ ./docker-hadoop.sh --exec 1 /bin/bash
```

Docker provisionerの仕組み

- `docker-hadoop.sh --create`で出力された`docker-compose.yml`を見ると分かる
- Bigtopのソースツリーを`/bigtop-home`にマウント
- Hieraの設定を生成して`puppet apply`

Docker provisionerの設定ファイル(の一部):

```
$ cat docker-compose.yml
bigtop:
  ...
  volumes:
  - ../../:/bigtop-home
  - ./config/hiera.yaml:/etc/puppet/hiera.yaml
  - ./config/hieradata:/etc/puppet/hieradata
  - ./config/hosts:/etc/hosts
  - /sys/fs/cgroup:/sys/fs/cgroup:ro

$ cat config/hieradata/site.yaml
bigtop::hadoop_head_node: b2d614be6039.bigtop.apache.org
hadoop::hadoop_storage_dirs: [/data/1, /data/2]
bigtop::bigtop_repo_uri: file:///bigtop-home/output
bigtop::bigtop_repo_gpg_check: false
hadoop_cluster_node::cluster_components: [hdfs,yarn,mapreduce]
hadoop_cluster_node::cluster_nodes: [172.17.0.3, 172.17.0.4, 172.17.0.2]
...
```

Dockerクラスタの終了

- スクリプト経由でコンテナ停止と、一時ファイル等の削除
- クラスタ起動中の問題などでやり直す場合も、まず一度--destroyしてから

Dockerコンテナクラスタの停止:

```
$ ./docker-hadoop.sh --destroy
```

bigtop-tests



smoke-tests

- パッケージをデプロイした状態で動くかざっくり確認するためのテスト
- おもにGroovyで実装されている
- CLIを実行して期待する出力が得られるかを確認というパターンが多い

smoke-testsのテストケースの例:

```
$ cat bigtop-tests/test-artifacts/hadoop/src/main/groovy/.../hdfs/TestTextSnappy.groovy
...
@Test
void testTextSnappy() {
    String cmd = "hadoop fs -text ${testDir}/${snappyFileName}"
    System.out.println(cmd)
    sh.exec(cmd)
    String output = sh.getOut().join("\n")
    logError(sh)
    String expected = "1\ttrafferty\t31\n2\ttjones\t33\n3\tsteinberg\t33"
    System.out.println("Expected output:\n${expected}")
    System.out.println("Actual output:\n${output}")
    assertEquals("Incorrect output", expected, output)
}
```

スモークテストの実行方法

- スモークテストの実行は以下の3ステップ。

```
$ curl -sLO https://downloads.apache.org/bigtop/bigtop-3.1.1/bigtop-3.1.1-project.tar.gz
$ tar xf bigtop-3.1.1-project.tar.gz
$ cd bigtop-3.1.1
```

1. Bigtop の tarball をダウンロードし展開

```
$ . /usr/lib/bigtop-utils/bigtop-detect-javahome
$ export HADOOP_CONF_DIR=/etc/hadoop/conf
```

2. JAVA_HOME, およびテストの実行に必要な環境変数の定義. (コンポーネントごとに必要な環境変数は異なる。確認するには展開したファイルの bigtop-tests/smoke-tests/コンポーネント名/build.gradle の doFirst メソッドを参照)

```
$ ./gradlew bigtop-tests:smoke-tests:yarn:test -Psmoke.tests --info
```

3. この例ではYARNのテストを実行

```
org.apache.bigtop.itest.hadoop.yarn.TestNode > testNodeBasic STANDARD_OUT
-list
-status
```

```
org.apache.bigtop.itest.hadoop.yarn.TestRmAdmin > testRmAdminBasic STANDARD_OUT
-help
-getGroups
```

...

スモークテストの実行方法 (続き)

テストの詳細な結果を知りたい場合は
これらのファイルを参照

```
Gradle Test Executor 2 finished executing tests.
```

```
> Task :bigtop-tests:smoke-tests:yarn:test
```

```
Finished generating test XML results (0.009 secs) into: /home/vagrant/bigtop-3.1.1/bigtop-tests/smoke-tests/yarn/build/test-results/test
```

```
Generating HTML test report...
```

```
Finished generating test html results (0.02 secs) into: /home/vagrant/bigtop-3.1.1/bigtop-tests/smoke-tests/yarn/build/reports/tests/test
```

```
Now testing...
```

```
:bigtop-tests:smoke-tests:yarn:test (Thread[Execution worker for ':',5,main]) completed. Took 7.453 secs.
```

```
BUILD SUCCESSFUL in 53s
```

Docker provisionerでtestを実行

- Docker provisionerで起動したクラスタ上でテストを実行することもできる

起動済みのDockerコンテナを利用してsmoke testsを実行:

```
$ cd provisioner/docker  
$ ./docker-hadoop.sh --smoke-tests hdfs,yarn,mapreduce
```

開発コミュニティの動向

Bigtopの開発コミュニティ

- Bigtop 3.0のリリース以降、Contributorは増えた印象
- Bigtop 3.1のリリース後に深刻な問題の報告(BIGTOP-3714)があり、3.1.1をリリースした
- Bigtop 3.2のリリース後にHadoop 3.3.5へのアップグレードのため、3.2.1をリリースした
- Committer/PMC memberは微増
- (Bigtopに限らず)中国系企業の技術者からのcontributionのボリュームが増えた印象
 - openEuler対応はその表れ

Apache Ambari

- Hadoopエコシステムのプロビジョニング/運用管理ツール
- 旧Hortonworks社が開発を主導
 - 旧Hortonworks社のHadoopディストリビューション(HDP)が前提
- BigtopはAmbariをパッケージングしているが、mpackは(ほとんど)未提供

- Cloudera社とHortonworks社との合併(2019)以降、開発は停止
 - Cloudera Managerと競合/重複するプロダクトのため
 - HDPのパッケージやソースコードも非公開化 (有償サブスクリプションが必須)
- ASFの開発プロジェクトはAtticに移動(2022/01): <https://attic.apache.org>
 - 活動休止したプロジェクトの情報を提供
 - 過去のリリース等の資材やWebサイトは残り、ソースコードはリードオンリー化

- Ambari利用企業の開発者が参加し活動再開(2022/09)
- デフォルトスタックをHDPからBigtopに変更
- Bigtopのmpack定義はAmbari側に移行

Hadoopの開発コミュニティ

- 3.4系(branch-3.4)、3.3系(branch-3.3) を維持
 - 3.4.0、3.3.6が最新版
 - 3.2系は2023年12にEOL宣言された
 - 2.10系は明示的にはEOL宣言されていない
 - もうリリースしないがセキュリティfixはbranch-2.10にもバックポートする可能性あり
- 3.4.0は、このスライド作成時点でリリース作業中
 - 1000以上の(fixed in 3.4.0 onlyな)修正がある
 - transitive dependenciesの変更が大きい
 - downstream productsに影響する可能性が高い
 - Java 11への(完全)移行はいまだに難航中

おわりに

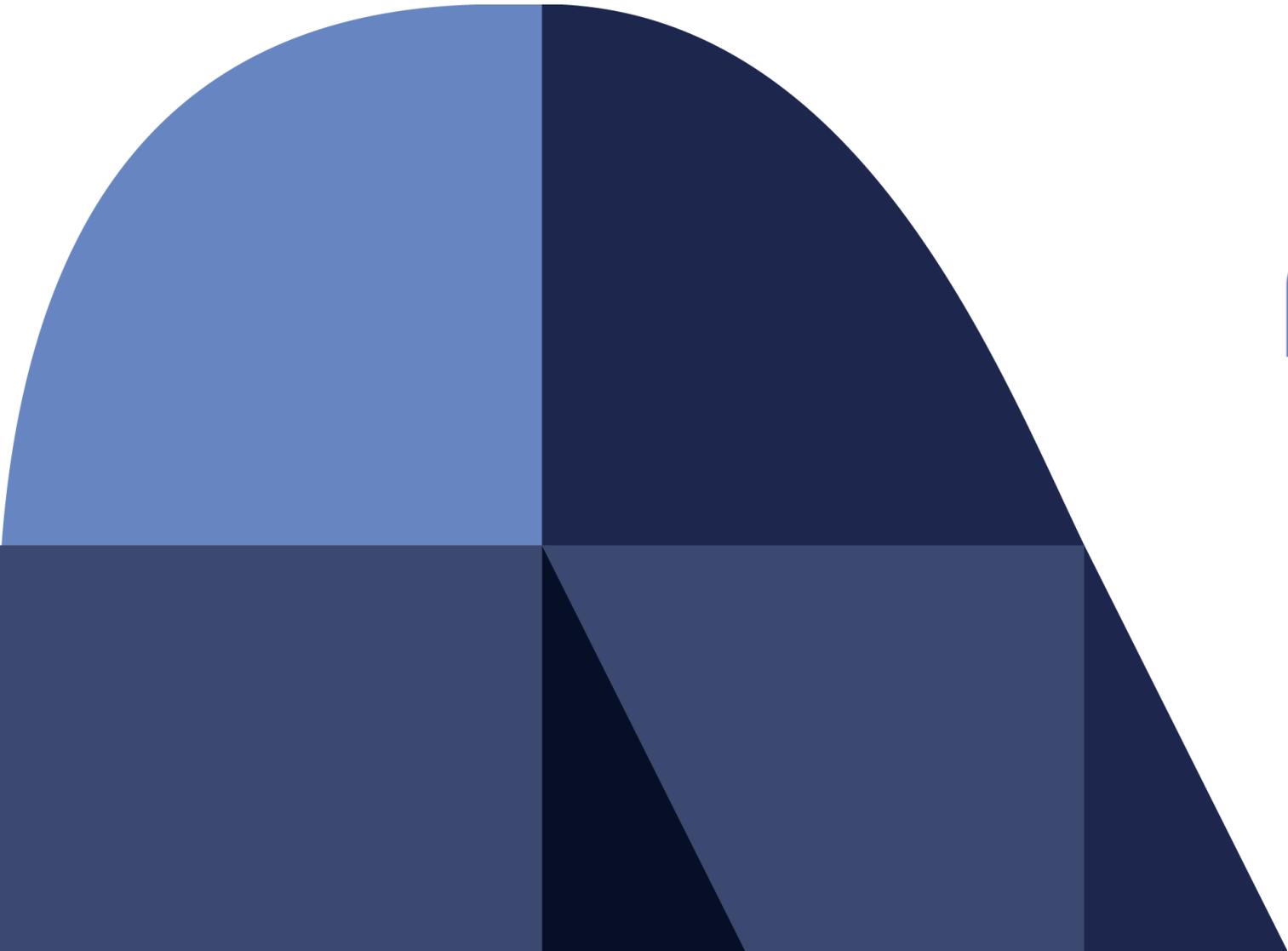
おわりに

BigtopはHadoopエコシステムのプロダクトの「使える組み合わせ」を提供

Bigtop 3.3の大きなトピックはOpenEuler対応とRanger追加

主要プロダクトのバージョンアップ作業は進行中

Hadoop 3.4系対応はBigtop 3.4でやるかも



NTT DATA

Trusted Global Innovator

本資料に記載されている会社名、商品名、又はサービス名は、各社の登録商標又は商標です。

NTT DATA